

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについて、80%に満たなかった事業については、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容	目標値	実績値	目標達成度	目標達成度についての評価分析 (達成の理由、困難だった原因など)
								平成29年度	H29年度	H29年度	H29年度	
(1) 健康増進と健康管理に関する取組												
1. ライフステージにおける取組《乳児期・幼児期・学齢期》												
○料理教室の開催による食育												
1	少子化対応推進事業	【重点課題セ】 離乳食講座と実習	幼児教育センター	月齢や発育・発達状態に合わせた離乳食の段階や調理方法の指導、旬の食材を使った離乳食作りと試食体験	月齢や発育・発達状態に合わせた離乳食の確実なステップや調理方法の指導より、食事の基礎を作る。また、情報交換や相談の場の提供により安定した生活を図る。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・妊産婦 ・乳児の保護者	参加者数	●開催回数11回 ●内容:5~6か月頃と7~8か月頃、9~11か月頃(6回)、12~18か月頃の離乳食の講話と実習(各5回) ●開催場所:中央保健福祉センター ●対象:妊産婦及び乳児保護者 各20名	200人	214人	107.0%	5~8ヶ月対象の講座は特に希望者が多かった。離乳食開始前の母親たちの不安が大きいためと思われる。受講してから離乳食を始めたという方が多かった。広報に関しては、健康づくり課や子ども保健課、各子育て支援センター等に協力してもらっている。
新	少子化対応推進事業	父親向け食育講座	幼児教育センター	父親向け食育講座の開催	乳幼児をもつ父親が食の大切さについて講話や実習を通して学ぶ機会とする。また、家族と一緒に試食することで、家族で食事をする事の良さ、楽しさを体験する。	乳幼児の子どもを持つ父親	参加者満足度	●開催日:6月4日 ●開催場所:幼児教育センター ●内容:講話・実習・試食 ●献立:だし巻き卵・味噌汁・ふくら焼き鮭・青菜の磯辺和え	100.0%	100.0%	100.0%	父親が参加しやすい講座とするため、試食を家族で行う等工夫をし、家族参加型とした。調理だけでなく講話を行うことで、食に関しての関心も高まった。実習内容は調理に不慣れな方でも無理なくできるような献立にし、手順も実演をしながらの説明でわかりやすかった。
2	男女共同参画推進事業	【重点課題セ】 親子クッキング	人権男女共同参画課	身近な食材を利用しながら、栄養バランスの取れた料理を作る親子料理体験	親子での料理体験を通じ、家庭での男女平等教育、男女共同参画の推進、食育の推進を図る。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・子ども ・保護者	参加者数	●開催日:12月17日(日) ●開催場所:男女共同参画推進センター「スピカ」調理実習室 ●内容「父と子のクッキング」そば打ち体験”13人	48人	13人	27.1%	29年度は男性向け料理教室を増やし(年3回)、親子向け教室を年2回から年1回に減らした。また実施した「蕎麦体験」は通常の親子クッキングより道具やスペースの都合上、参加定員を減らしているため参加者数が少なくなった。
3	幼児教育センター運営費	【重点課題セ】 親子クッキング	幼児教育センター	幼児向けのおやつを作る親子料理体験	親子料理体験をとおして親子がふれあい、また、子どものころから「食」への関心を高める。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・児童(就学前) ・保護者	料理体験の満足度	●開催日 ①8月29日 ②8月30日 ●献立:チンジャオロース・茶わん蒸し ●開催場所:幼児教育センター ●対象:3歳~未就学児とその保護者 各10組	100.0%	100.0%	100.0%	3歳から就学前の幼児が保護者と一緒に、おしゃべりやふれあいを楽しみながら料理体験ができた達成感や、試食で嫌いなものも食べるなど喜びが大きかった。また、この講座を通して親子で「食育」について学ぶことができた。
4	幼児教育センター運営費	【重点課題セ】 幼児食調理講習会	幼児教育センター	調理講習会の開催(子ども向けのメニューや、調理方法などを学ぶ)	大人自らが食生活を見直し、食をとおして子育ての楽しさや大切さを感じとる。食を楽しむ機会をとおして子どもの「食育」について関心を高める。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・就学前児童の保護者	調理講習会参加者の満足度	●開催日:①10月2日、10月3日 ②2月14日、2月15日 ●献立:①親子丼・白和え ②桃色寿司・白玉団子のお吸い物・菜の花の甘酒和え ●開催場所:幼児教育センター ●対象:未就学児の子どもをもつ保護者 各10組	100.0%	100.0%	100.0%	就学前の幼児をもつ保護者が、幼児向けの調理のポイントや栄養バランスを考えたメニューなどについて、講話を聞いたり調理体験を通して理解を深めることができたこと、日ごろの食事作りや食習慣を見直す良い機会となった。
5	栽培漁業推進事業	啓発活動 ・水産教室など	水産課	水産教室、お魚料理教室、漁業体験などの開催	体験などを通じてブルーーツーリズムを推進するとともに、料理教室を通じて水産物の消費拡大、地産地消の推進を図る。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・市民	水産教室などへの参加者数	水産教室の開催 小中学校で栽培漁業、地元水産振興活動の紹介、種苗放流、さばき方教室の実施	540人	575人	106.5%	水産教室等の1回あたりの参加人数が昨年度より増えたため。(H28 1回あたり約19人⇒H29 1回あたり約21人)
○相談、支援などによる食育												
6	公立保育所拠点機能事業	食に関する育児講座等	子ども育成課	食に関する講話や調理実習、むし歯予防の講話	在宅親子に対して、食や口腔に関する正しい知識を普及する。	・在宅親子	参加者数	○歯科講話開催、わいわい広場4回実施。 ・歯の正しい磨き方や虫歯予防のミニ講話をしたり、個別に口内のチェックや磨き方のアドバイスをする。 ○わいわい広場で、食育講座4回・調理実習7回・体験7回、たんぼぼの会(0歳児の会)で栄養士講話を16回実施。 ・離乳食や食への関心を深め望ましい食習慣を促す。	1,000人	1,114人	111.4%	○支援センター利用児の低年齢化(0~2歳児が多い)が続いていることもあり、歯科検診に行ったことがない児も多く、広場で歯磨きの仕方や虫歯予防についての講話を聞いたり、児の口内を見てもらったり、その場で相談しながらアドバイスをもらえることなど、満足度が高い理由と考える。 ○たんぼぼの会(0歳の会)では、食品サンプルを見本に離乳食についての講話を聞きながら、個別での相談もできる。第1子の母親を対象としていることもあり、満足度が高い理由と考える。 ○わいわい広場の食育の中で、親子でできる調理体験は人気だが、低年齢化によって、一緒に体験を希望する参加者の人数は少なくなってきた。試食のみ参加を希望する人たちが多く、食育の一環として、子供の食事・おやつへの興味関心を高めるための策と考えれば、満足度は高く、将来、調理体験に参加したという意識につながっている。
7	地域リサイクル活動支援事業	【重点課題セ】 食のリサイクル	廃棄物課 減量推進	生ごみを活用した元気野菜づくりの体験活動を実施するために「ごみ減量アドバイザー」を登録し、地域や学校などの講習会に指導者として派遣	自然の恵みに感謝し、自然の仕組みを知ることにより、食への関心を高めるとともに、「限りある資源を大切にすること」を育む。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・幼稚園、保育所の園児 ・児童生徒 ・市民	派遣回数	ごみ減量の取り組みとして、生ごみを活用した土づくり・野菜づくりの体験活動を実施するために「ごみ減量アドバイザー」を地域や保育園などに計2回の派遣を行った。	10回	2回	20.0%	市民への周知不足 アドバイザーとの連携不足 生ごみのたい肥化は「土」が必要でありマンションやアパートなどの集合住宅では実施しにくく、一定の手間がかかる。 (30年度は4回の実施あり)

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについて、80%に満たなかった事業については、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容	目標値	実績値	目標達成度	目標達成度についての評価分析 (達成の理由、困難だった原因など)
								平成29年度	H29年度	H29年度	H29年度	
8	幼児教育センター運営費 (再掲)	食に関する相談 (子育てトーク ほっとタイム)	幼児 教育 セン ター	子育て相談員を交えて保護者同士がおしゃべりを楽しむ中で、食に関する情報交換、相談を実施	食生活の不安を解消する。	・市民	参加者満足度	●開催日:10月16日 ●開催場所:幼児教育センター ●対象乳幼児の子どもをもつ母親 ●内容:手遊びや読み語りなど親子で楽しんだ後、母親は小グループに分かれ情報交換を行う。	100.0%	100.0%	100.0%	幼児教育センターのきらきら広場で、子育て支援を行っているが、その一環として「子育てトーク・ほっとタイム」を実施。子育て中の保護者がグループになって、「子どもの食」について、子育て相談員を交え楽しくフリートークすることで、共感したり、互いにヒントやアドバイスを提供し合うなどして、情報交換や不安解消ができた。
9	少子化対応推進事業 (再掲)	食に関する講演会	幼児 教育 セン ター	日ごろの食習慣を見直し、「子どもの食」について考える機会として食育講演会を開催	保護者が食育の様々な情報や知識を習得することによって食育への関心を高め、日頃の食生活を見直す機会とするとともに、乳幼児からの食生活の必要性を発信していく。	・市民	参加者満足度	事業内容の変更により実施していない	未定	未実施		
10	家庭教育推進事業	子育て講座・研修会	社会 教育 課	小学校の入学説明会時に子育て講座を開催、PTAを対象とした各種研修会を実施	家庭が果たすべき役割や家庭教育の重要性を再確認し、家庭における教育力を充実させる。	・小学生の子どもを持つ家庭・保護者	「させぼ子育て講座」受講率	小学校入学説明会時に、保護者を対象として「させぼ子育て講座」を開催した。	100.0%	100.0%	100.0%	保護者の出席率が高い入学説明会時に講座を実施することで、効率的に事業実施ができています。
○健康診査時における食育												
11	母子管理対策事業	4カ月児健診	子 ども 保 健 課	授乳時の母親の食事・母乳栄養・混合栄養・離乳食準備期から完了期についての指導	親子の心の安定の中で食を楽しむ心地よい生活を実現する。	・対象児 ・保護者	健康診査受診率	授乳期の母親の食事・母乳栄養・混合栄養・離乳食準備期から完了期についての指導	100.0%	97.7%	97.7%	健診未受診者に対しては、手紙や電話等で受診勧奨を行っている。
12	歯科保健推進事業	10カ月児歯科 育児相談	子 ども 保 健 課	離乳食後期から完了期の食事指導、生えてきている歯の本数に合わせた噛み方、飲み方の指導、口腔内のチェック、歯みがき指導	体験をとおして、自分で進んで食べようとする力を育む。	・対象児 ・保護者	1歳6カ月児健診でむし歯のない児の割合	離乳食後期から完了期の食事指導・生歯本数・口腔内のチェック・歯磨き指導 ※H28年度から子育て支援センターでの巡回相談を開始しており、事業の移行を図っている。				別事業に移行予定のため目標値設定なし
13	1歳6カ月児健康診査	1歳6カ月児健康診査 (歯科健診含む)	子 ども 保 健 課	幼児食から普通食・間食についてや、噛む習慣の定着についての指導	子どもが食を楽しみ、食に関心を持ち、生活リズムの確立を図る。	・対象児 ・保護者	健康診査受診率	離乳食の完了期。幼児食・間食などの相談	100.0%	95.6%	95.6%	健診未受診者に対しては、手紙や電話等で受診勧奨を行っている。
14	1歳6カ月児健康診査 (再掲)	2歳児経過歯科健診	子 ども 保 健 課	2歳になるフォロー児に対する歯科保健指導	保護者に対し、歯の大切さ、生活習慣の見直しなどを意識づけ、健全な口腔機能の維持を図る。	・対象児 ・保護者	経過歯科健診受診率(所内及び歯科医院含む)	離乳食の完了期。幼児食・間食などの相談				
15	3歳児健康診査	3歳児健康診査 (歯科健診含む)	子 ども 保 健 課	食に関する相談、歯科健診の実施、正しい咀嚼についての指導	バランスの取れた食事や生活リズム、食事マナーなどについての認識、健全な口腔機能の維持を図る。	・対象児 ・保護者	健康診査受診率	食に関する相談、歯科検診の実施。	100.0%	91.7%	91.7%	健診未受診者に対しては、手紙や電話等で受診勧奨を行っている。
16	健康管理対策事業	学校における歯科健診	学 校 保 健 課	学校歯科医による児童生徒の歯科健診を実施するもの	児童生徒の健康管理・増進を図る。	・児童生徒	12歳児の1人平均歯数(DMFT指数)	学校歯科医により、各学校年1回～2回実施	0.90	0.88	102.2%	特になし
2. ライフステージにおける取組《青年期》												
○料理教室の開催による食育												
17	食育推進事業	【重点課題】高校生への食育推進事業	健 康 づ くり 課	家庭から自立する時期にある高校生を対象に食に関する啓発を行う	家庭から自立する時期にある高校生に対し、健康的な食生活を実践するための支援を行う。	・高校生	・実施回数	・参加者数:延699人がブースに訪れた。 (佐世保西・佐世保北・九州文化学園・佐世保高専・東翔高校の文化祭時にブース出展。) ・内容:①炭酸飲料に含まれる量の砂糖水の試飲 ②コンビニ等の食品の脂質量の展示③コンビニ等の食品の主食・主菜・副菜の割合、スポーツと栄養について等のパネル展示をし、クイズ形式で回答	4回	5回	125.0%	平成27年度から、市内の高校14校を3年で巡回するように計画をして実施した。3年目の平成29年度は、5校に実施したため、目標を上回った。

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについて、80%に満たなかった事業については、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容			目標達成度 (達成の理由、困難だった原因など)		
								平成29年度	H29年度	H29年度			
18	食育推進事業	【重点課題ほ】 大学生への食育推進事業	健康づくり課	大学生を対象に望ましい食生活の普及を行う。	大学生に対し、調理技術や望ましい食生活に関する知識を普及することで、将来の生活習慣病を予防する	市内の大学・短期大学に通学する学生		大学生食育推進チームを作り、現役大学生と一緒に媒体作成、料理教室の企画等を予定したが、実施困難となり未実施。					
○健康診査時における食育													
再	健康診査事業 (再掲)	成人歯科健診 (再掲)	健康づくり課	事業番号 26 の再掲									
3. ライフステージにおける取組《壮年期》													
○料理教室の開催による食育													
19	健康管理事業	健康アップ料理教室	医療保険課	参加者に生活習慣病予防食を作ってもらい、料理する楽しさを通して、食生活の大切さ、関係知識の啓発を実施	管理栄養士の専門的な指導により、具体的な食習慣改善指導(支援)を行うもの。	佐世保市国民健康保険加入者(特定健診受診者優先)	参加者数	事業廃止	100人				
20	健康管理事業	カラダすっきり教室	医療保険課	食と運動を具体的に体験しながら学習する機会を提供し、即実践できる知識の啓発を実施	管理栄養士及び健康運動指導士等の専門的な指導により生活習慣改善の効果の向上をはかり重症化予防を目指す	特定健診受診後特に生活改善が必要な方(特定保健指導該当者及び重症化予防対象者)	参加者数	事業廃止	60人				
21	いきいき元気食事づくり教室	【重点課題せ】 いきいき元気食事づくり教室	健康づくり課	いつまでも元気でいきいきと過ごすために、食を通して健康を維持し、介護予防についての理解を深めるための講義や実習を行う。	いつまでも元気で、活動的に暮らすために高齢者とその家族を支援する。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・高齢者 ・家族	料理教室の参加者数	・開催回数:16回(各回3回コース) ・参加人数(延):800人 3回シリーズ。男性初心者対象を2回開催。 栄養士・保健師・歯科衛生士からの講話を実施。	960人	800人	83.3%	1教室定員20名で、各回3回コースで16回(地区)実施した。20人の定員よりも数多く受付をしても、急なキャンセルや欠席などが多い回もあり、参加者平均16.7人と定員を下回る数となった。地区により集客の状況にばらつきがあり、世知原・鹿町での集客が困難だった。例年広報には6月号から掲載しているが、平成29年度は5月号から掲載でき効果があった。チラシの配布については、長寿社会課と連携して行った。	
22	介護食づくり教室	【重点課題せ】 介護食づくり教室	健康づくり課	要介護者の状態を維持しながら、食べる楽しみを得るための介護食を習得する料理教室の開催	介護を必要とする人の食べる機能の段階に応じた介護食づくりを行い、介護に携わる人の調理技術と食に関する知識を向上させる。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	介護に携わる方で介護食づくりに不慣れな方	料理教室の参加者数	・開催回数:10回(各回2回コース) ・参加人数(延):284人 歯科衛生士・栄養士の講話による介護に必要な情報の提供。歯科衛生士による口腔ケアの実践を取り入れ実施。普通食から一工夫した介護食の調理実習。	200人	284人	142.0%	平成27年度からの事業である。平成28年度から定員を20名から15名に減らして実施した。2回シリーズ×6回の実施だったが、ニーズが高く、平成29年度は2回シリーズ×10回で実施した。公民館などへポスター・チラシの設置の他、小規模多機能型居宅介護施設、佐世保市ホームページや老人施設が開催している介護教室でチラシを配布した。	
○相談、支援などによる食育													
23	健康手帳交付事業	健康手帳交付	健康づくり課	食生活や運動を含め、生活習慣病予防の情報を提供するため健康手帳を配布	自身の健康管理と適切な医療確保に役立つ。	・40歳以上	・40歳到達者 ・希望者への配布数	H29～ 事業廃止	1,100冊				健康手帳の交付が、紙方式から厚生労働省のホームページからダウンロード方式による交付に変更されたため、個々人がダウンロードするため、数の把握が困難となり、目標値が適切ではなくなった。今後も、健康づくりのために手帳の活用の啓発や広報も継続していく。
24	健康相談事業	健康相談	健康づくり課	生活習慣病に関する来所・電話相談、食生活を含めた運動や生活全般に対する指導助言	個別相談を行うことで、対象者の生活状況にあわせた具体的な指導を行い、生活習慣病を予防する。	・40歳以上	相談者数	生活習慣病に関する来所・電話相談、食生活を含めた運動や生活全般に対する指導助言	5,000人	2,733人	54.7%	老人福祉施設での実施場所が5施設から3施設、実施回数も毎月から2ヶ月に1回へと減少し、相談回数が減少している。	
25	健康教育事業 (再掲)	健康教育	健康づくり課	食生活、運動、生活全般の指導助言、骨粗しょう症検診や歯科健診の指導	食の知識を深めることにより、健康への自覚を高め自分の健康管理を主体的に実践する。	・40歳以上	健康教育の参加者数	食生活、運動、生活全般の指導助言、骨粗しょう症検診や歯科健診の指導	186回	190回	102.2%	運動普及推進員の各地区のウォーキングへ出向くようにしたため、健康教育の回数の増加につながり目標達成となった。今後も、食事・運動・口腔・生活習慣などについて正しい知識の普及・啓発についての機会を設け、主体的に健康管理ができるように働きかける。	
○健康診査時における食育													

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについては、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容	目標値	実績値	目標達成度	目標達成度についての評価分析 (達成の理由、困難だった原因など)
								平成29年度	H29年度	H29年度	H29年度	
26	健康診査事業 (再掲)	成人歯科健診	健康づくり課	歯科医院での歯科健診、中央保健福祉センターでの歯科健診を実施。 食の基礎となる歯や口腔の健康維持、機能維持を促進する。	毎日の食生活の充実、「食べる楽しみ」を確保する。	・18歳以上(高校生を除く)	委託歯科健診、所内歯科健診及び離島での歯科健診の受診者数	対象者:高校生を除く18歳以上 実施時期:通年(委託歯科医院のみ) 実施場所:中央保健福祉センター、市内歯科医院99か所、宇久、高島、黒島 実施回数:中央保健福祉センター25回、宇久5回、高島1回、黒島1回	1,850人	1,139人	61.6%	本市では、18歳以上(高校生を除く)市民に対し、成人歯科健診の対象としているが、平成28年度に行った「佐世保市民の健康に関する実態調査」によると市民の50.4%が過去1年間に歯科健診を受けたという状況であった。市民自ら、各自で定期歯科健診を受けていると考えられる。
27	特定健康診査事業費	【重点課題】 特定健康診査	医療保険課	国民健康保険加入者の40~74歳を対象に内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)に着目した特定健康診査を実施。 また、健診後に管理栄養士による対象者の健康状態に応じたきめ細かな栄養指導などを実施。	生活習慣病予防のために、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)やその予備群を的確に抽出し、該当者を特定保健指導につなげる。	国保加入者40~74歳	受診率	受診率目標60%	60.0%	35.7%	59.5%	医療機関に受診勧奨とあわせて未受診者の検査データを特定健診データとして活用する情報提供事業の協力を依頼し、集団健診では土・日曜日にかん検診との同時実施の回数を増やすなど、受診しやすい環境を整備したことで受診率は4年連続向上したものの、目標には届かなかった。目標に対する乖離があるため、平成30年度からの第三期計画から本市の過去の実績及びその伸びを考慮して目標値を設定し直し、最終年度の平成35年度に40%を目指す。
28	特定保健指導事業費	【重点課題】 特定保健指導	医療保険課	国民健康保険加入者の40~74歳を対象に内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)に着目し、管理栄養士による対象者の健康状態に応じたきめ細かな栄養指導などを、特定保健指導として実施する。	特定健康診査により抽出した糖尿病などの生活習慣病予備群に対して適切な保健指導を行い、対象者が生活改善を行うことで将来的な発症の抑制を目指すもの	国保加入者40~74歳	特定保健指導実施率(%)	実施率目標60%	60.0%	59.0%	98.3%	集団健診会場での指導予約取り、対象者が受けやすい環境を整えるための集団指導から個別指導への切り替え、家庭訪問を行っての指導、特定保健指導委託等、指導率を目標値へ近づけるため検診・改善を行い、指導率の上昇、達成へとつなげた。今後30年度以降は目標率60%以上を目指す。
4. ライフステージにおける取組《高齢期》												
○料理教室の開催による食育												
再	いきいき元気食事づくり教室 (再掲)	【重点課題】 いきいき元気食事づくり教室 (再掲)	健康づくり課	事業番号 21 の再掲								
○相談、支援などによる食育												
再	介護食づくり教室	【重点課題】 介護食づくり教室	健康づくり課	事業番号 22 の再掲								
再	健康手帳交付事業 (再掲)	健康手帳交付 (再掲)	健康づくり課	事業番号 23 の再掲								
29	介護予防・生活支援サービス事業	きらっと元気教室	長寿社会課	運動機能向上および認知機能低下予防に関するプログラムの実施。また、口腔機能向上・栄養改善の健康教育も行う。	対象者に応じた個別のプログラムを設定し、各機能の向上を図ることにより、自分らしい生活の確立と自己実現を支援する。	総合事業対象者および要支援1・2の認定をもっている者のうち、短期集中予防サービスが必要と認められた者	きらっと元気教室に参加した高齢者数	参加者に対して、教室中(1クール12回)に1回は栄養改善の健康教室を実施。市内19事業所で教室を実施し、参加人数は667名。	100.0%	88.9%	88.9%	平成29年度から開始された事業で、事業実施にあたり実施事業所マニュアルの配布、事業者への説明会や研修等を実施することで目標達成度80%を達成できたと考える。
○健康診査時における食育												
再	健康診査事業 (再掲)	成人歯科健診 (再掲)	健康づくり課	事業番号 26 の再掲								
30	歯科保健推進事業 (再掲)	歯の健康優良高齢者コンテスト	健康づくり課	80歳以上の高齢者で健康な口腔を有する者を表彰	楽しい食生活をおくるため、80歳以上になっても20本以上、自分の歯を保持する。	・満80歳以上	参加者数	審査日:平成29年5月17日(水) 審査場所:中央保健福祉センター6階 参加者:36人 表彰式:平成29年6月4日(日) 中央公民館にてデンタルフェスティバル内で優良者7名を表彰	33人	27人	81.8%	毎年、佐世保市老人連合会の定例会(理事会)を通じ、8020コンテストの参加者募集について情報提供の徹底を行った結果、市内の80歳以上の方となる対象者の周知に繋がってきた。 ※なお、平成30年度を持って本市の8020達成者実績が目標値へ届いたことと、目的が果たされたとして事業終了。

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについて、80%に満たなかった事業については、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容	目標値	実績値	目標達成度	目標達成度についての評価分析 (達成の理由、困難だった原因など)
								平成29年度	H29年度	H29年度	H29年度	
再	特定健康診査事業費(再掲)	【重点課題さ】特定健康診査(再掲)	医療保険課	事業番号 27 の再掲								
再	特定保健指導事業費(再掲)	【重点課題さ】特定保健指導(再掲)	医療保険課	事業番号 28 の再掲								
5. ライフステージにおける取組《妊娠期》												
○料理教室の開催による食育												
○相談、支援などによる食育												
31	育児等健康支援事業(再掲)	【重点課題ほ】母子健康手帳交付	子ども保健課	母子健康手帳の交付時に保健・栄養・歯科について小グループ指導を実施。	母性尊重の理念を高め、健康増進の意欲を図る。心身・出産に関する栄養の知識を普及する。	・妊産婦	相談者数	母子健康手帳交付時に栄養・保健・歯科についての指導を実施	2,241人	2,020人	90.1%	母子健康手帳交付数を目標値、実績値に掲げているが、評価指標に適していない。指標の変更を検討。
32	育児等健康支援事業(再掲)	【重点課題ほ】マタニティ学級	子ども保健課	栄養バランスなどの食事診断を実施	健康の増進、生活の質の向上、バランスのとれた食生活による豊かな生活、家族で食卓を囲む楽しい食事の実践につながる。	・妊婦	育児相談者数・教室参加者数	講話だけでなく、簡単にできる野菜の1品料理や天然だしの味噌汁の試飲等を行い、実演も含めた内容にし、即行動変容ができるような教室内容に努めた。	1,300人	700人	53.8%	産婦人科が開催する教室や、H29年から設置した「ままんちさせぼ」(妊娠期からの相談窓口)など相談できる場所が増えていること。また、出生数の低下により参加者数が減っていると考えられる。ただ、現状を踏まえ、目標値の変更も検討したい。
○健康診査時における食育												
33	健康診査事業(再掲)	妊産婦歯科健診	健康づくり課	歯科医院での歯科健診、生活習慣病健診時の歯科健診を実施するとともに、妊産婦に必要な歯科保健指導や健康管理を実施	毎日の食生活の充実、「食べる楽しみ」を確保する。また、歯科保健指導によって、妊娠期に必要な口腔管理を行う。	・妊産婦	妊産婦歯科健診受診率	対象者：妊婦及び出産1年未満の産婦 実施時期：通年(委託歯科医院のみ) 実施場所：中央保健福祉センター 市内歯科医院99か所 実施回数：中央保健福祉センター25回	300人	225人	75.0%	母子健康手帳交付時やマタニティ学級を通じて、妊産婦歯科健診の周知をしている。これまで出産1年未満の産婦となる10か月児歯科育児相談事業の中で、受診勧奨をおこなって来たが、現在、10か月児対象者を不安や相談のある方としているため、受診者数が減少していることもあり、産婦となる母親へに対する受診勧奨も低迷している。
(2) 食育への意識高揚												
1. 継続的な食育推進運動における情報提供及び健康づくりへの意識の普及や啓発事業												
34	食育推進事業(再掲)	【重点課題さ・ほ】食育意識啓発、普及	健康づくり課	ライフステージに応じ、市民の望ましい食生活に向けた食育に関するイベントを行う団体と連携し、イベントで食育に関するブースを設け普及・啓発を行う。また家族そろっての食事(共食)は食育の原点であることから、月に1度は家族そろって食事する機会を持つよう啓発を行う。	食育に関心を持ち、実践する市民の増加を図る。	・市民	イベント及び講座参加者数	ライフステージに応じて市民の望ましい食生活の実践に向けた食育に関する展示・掲示媒体の充実。各種団体と連携し、イベントで食に関するブースを設け、普及・啓発を行った。(チラシの配布、食育備品貸出案内、わんぱく広場、お魚まつり、がんばらんばキャンペーン等)	2,000人	2,078人	103.9%	各種イベントや講座の参加者。平成29年度新規のイベント参加は特になかったが、目標達成できた。
35	食育推進事業(再掲)	ヘルシークッキングコンテスト[家族そろっての食事推進]	健康づくり課	望ましい食習慣を身につけるために、簡単に作ることができるメニューを募集し、募集した作品のレシピの配布等を行い、周知・啓発をはかる。	啓発をとおして、各家庭での基本的な食習慣(家族そろっての食事や朝ごはんを食べる)を見直す機会を図る。	・市民	応募作品数	テーマ：1品料理で主食・主菜・副菜がそろったレシピ 応募数：1,003点	1,500点	1,003点	66.9%	応募作品数推移：H27、1,475作品。H28、1,382作品。H29、1,003作品。学校単位での申し込みが例年一定数あるが、提出される学校が固定化してきていること、一般からの応募が伸び悩んでいるのが現状。周知は、公民館や支所・スーパーポスター・チラシの設置。佐世保市ホームページに掲載。
36	歯科保健推進事業(再掲)	デンタルフェスティバル	健康づくり課	毎年6月の「歯の衛生週間」に開催、「食生活コーナー」を設置して、おやつなどの砂糖含有量について指導を実施	啓発をとおして食の楽しみ、歯と口の健康維持、むし歯予防を図る。	・市民	参加者数	実施日：平成29年6月4日(日) 実施時間：11時から15時 開催場所：中央公民館	2,000人	3,945人	197.3%	歯と口の健康週間(全国)と、「佐世保市歯・口腔の健康づくり普及月間」(本市)に伴い、6月第1日曜に、お口と健康(全身)に係る様々な医療関係団体の参加協力の下、「デンタルフェスティバル」を開催しているため、子どもから大人まで広く市民に周知啓発ができたものと思われる。また、親子連れでの集客を呼ぶアトラクション(ハルンアート)も毎年好評である。
37	けんこうショップさせぼ21計画事業(再掲)	【重点課題さ・ほ】健康づくり応援の店推進事業	健康づくり課	健康に配慮した登録店舗を増やすことで、望ましい食環境の整備に努める	食や禁煙など健康に配慮した取組を行う店舗をとおして、食環境整備を進めるとともに、市民の食生活に対する関心を高め、適切な食選択の実践につなげる	・食品衛生法許可営業施設	登録店舗数	録店舗数を増やすために「食品衛生責任者講習会」でPRを行った。	86店舗	85店舗	98.8%	平成29年度中、新規登録4店舗あったが、廃業により登録取消2店舗だった。「食品衛生責任者講習会」でPRしているが、手ごたえはあまりない。今後新規の店舗増加に向けた働きかけは、継続して行う。登録店舗の利用(活用)促進の働き掛けも必要と考えるため、今後は認知度を上げることを目標とするよう、指標式名を変更するか検討する。

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについては、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容	目標値	実績値	目標達成度	目標達成度についての評価分析 (達成の理由、困難だった原因など)
								平成29年度	H29年度	H29年度	H29年度	
38	公民館主催講座事業	食に関する講座による情報提供	社会教育課	各地区公民館が主催する市民向け講座に、食育のメニューを盛り込んで実施	市民が食育に関して理解を深めるとともに、幅広い知識を持ち、実践するようになる。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・市民	参加者数	24公民館で開催。実施回数89回、参加者数1,923名。料理教室をはじめ、食生活に関する情報提供により参加者の健康づくりや生きがいづくりになっている。	2,300人	2,222人	96.6%	夏休み期間中の子どもたちを対象としたサマースクールなど受講者が多く見込める講座において、食育に関する講座を実施したことにより、効果的に事業実施することができた。
39	生涯学習講師派遣事業	まちづくり出前講座	社会教育課	市職員が講師となって市民向け研修・講習・説明を行う「出前講座」を開催し、食育に関する情報を提供	市民が食育に関して理解を深めるとともに、幅広い知識を持ち、実践するようになる。	・市民グループ	受講団体数	市役所(及び関係機関)の業務をメニューとして取り揃え、市職員が講師として市内の学習グループ等に対して説明を行った。食育に関する講座は9講座あり、計15回実施している。	15団体	15団体	100.0%	食に関する講座の目標値を15団体による実施と定めて取り組んだところ、平成29年度は15団体の申込があり、15回実施することができた。
40	市民への情報提供事業	【重点課題さ・ほ】市民への望ましい食習慣に関する情報提供の充実	健康づくり課	市民が見つけやすい場所で望ましい食習慣に関する情報を掲示等で見せることにより望ましい食習慣への行動変容へとつなげる	市民が望ましい食習慣を実施できるよう、行動変容が期待できる場所での周知を図る	市民	情報提供実施率					連絡通路への普及啓発媒体の掲示を行っているほか、佐世保市ホームページへH29.10月から健康レシピを新規に掲載、H30.1月からは妊産婦・乳幼児の食事についても新規作成し、ホームページの内容を充実している。妊産婦・乳幼児の食事についてはQRコード付きのチラシを、妊婦相談などで配布し、活用を促している。H29.10月からホームページの閲覧数のチェックを行えるようにしたため、平成30年度は指標式名を検討する。
(3) 食育の取組支援												
1. 教育及び保育機関などの取組支援												
41	給食施設等指導事業(再掲)	調理師研修会	健康づくり課	特定給食施設などの調理師及び調理員に対して、給食管理、衛生管理に関する知識や技術向上のための情報提供	調理師及び調理員の資質の向上を図る。	・特定給食施設などの調理師及び調理員	参加施設割合	①H29年7月24日(月) テーマ:大量調理の特性について…参加117人 ②H29年7月25日(火) テーマ:栄養管理の書類の作成と活用…参加76人 参加者数は延べ193人(161施設)	80.0%	64.1%	80.1%	給食施設の種類や規模はさまざまであるため、施設の特性に合わせた研修会のテーマ設定が課題。平成29年度は児童福祉施設とその他の施設でテーマを分けて実施した。対象施設へ案内文書を送付し実施している。平成29年度の参加率は、平成28年度の72.8%から-8.7ポイント下がる結果となった。
43	学校における食育推進事業	児童生徒の食育指導	学校保健課	特別活動や給食時間、総合的な学習などを利用した児童生徒の体験学習を実施	体験をとおして、児童生徒が健康的な食生活のあり方や望ましい食習慣を身につける。	・児童生徒	小・中学校における体験活動とおした食育実施率	食育指導全体計画の作成	100.0%	100.0%	100.0%	各小・中学校において全職員が、食育全体計画のもと、学年に応じた食育に取り組んでいる。栄養教諭・学校栄養職もコーディネーターとして活躍している。野菜作りやみそづくりなど。
45	学校保健管理事業	子ども期歯科保健研修会	学校保健課	学校での歯科健康診断、歯科保健教育、むし歯や歯周疾患の積極的な予防のための研修会を開催	市歯科医師会の協力のもと、本研修会を開催している。よい歯の学校(園)の表彰や、講演会の開催により、歯科保健の充実に寄与している。	・教職員 ・保護者 ・歯科医	研修会参加人数	実践発表「徳・体・知の調和のとれた心身ともに豊かなたくましい生徒の育成」 佐世保市立清水中学校 保健主事 バー 陽子 養護教諭 中原 明日香 講演「あいうべ体操で元気な体」～息育指導を始めよう～ みらいクリニック 院長 今井 一彰	380人	376人	98.9%	歯科保健の優れた実践例の発表や講演会において参加者に魅力のあるテーマ・講師を招いて研修会を開催できたことが多くの参加者の出席につながり高い目標達成度となったと考える今後も参加者にとって有益で歯科保健の充実に繋がる研修会の開催に努めていく。
46	放課後子どもプラン推進事業	放課後子ども教室	社会教育課	地域の大人の協力を得ながら、献立作成、買い物、調理をはじめ、さまざまな生活体験を積む「通学合宿」の支援	食に対する子どもたちの関心を高め、規則正しい生活によって、基本的な生活習慣の定着を図る。	・主に小学4～6年生	通学合宿実施回数	市内5か所、最長6泊7日、最短2泊3日で実施。子ども達の集団生活を地域住民が支援し、協働する活動。	6回	5回	83.3%	通学合宿を実施する体制が確立されており、おおむね予定通り実施することができた。
2. 教育及び保育機関などにおける食事の提供及び給食の質の向上												
47	幼児教育センター運営費(再掲)	調理担当者の実技研修	幼児教育センター	調理担当者に、給食やおやつの実技研修を実施	保育施設において、不足しがちな栄養素を含む給食献立を取り上げ、子どもの発達に必要な栄養の取り方を学び、食事の提供を望ましい食習慣としつけが実践できる人材を育成する。	・調理員	参加者数	●開催回数:3回 ●開催場所:中央保健福祉センター ●対象:保育所等の調理担当者 ●内容:給食における食物アレルギーの対応について グループワークと実習	90人	65人	72.2%	以前は2日間開催(60人定員)していたが、認定こども園が給食提供を行うところが増え、要望があり27年度より3回(90人定員)に増やした。内容は要望の多かったアレルギー食について、満足度もいずれも100%と高かったが、案内の再送をしても参加人数は目標値に届かなかった。園の事情もあるので、人数や日程、時間等参加しやすいよう見直していきたい。
48	保育所給食施設指導	保育所給食施設指導	健康づくり課	特定給食施設などの設置者に対し、栄養管理のための指導、助言、支援	各施設での効果的な業務の実施と施設間の格差を無くす。	・調理や献立作成に従事する者 ・給食責任者	指導施設率	毎年5月・10月に保育所給食施設より件投票の提出。検討表から栄養量の過不足等のある施設に対し、支援・助言を行った。	90.0%	100.0%	111.1%	平成29年度の実績100%は、必要書類の提出を継続させることを目標とし、提出率を上げていた。未提出の施設には電話で提出を促し、提出率はほぼ100%になった。今後は指導内容への目標値を検討していきたい。

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについて、80%に満たなかった事業については、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容			目標達成度 (達成の理由、困難だった原因など)	
								平成29年度	H29年度	H29年度		
3. 学校給食の充実												
50	学校給食実施に関する事業	学校給食を通じた家庭・地域への啓発	学校保健課	新メニュー調理実習・衛生管理研修会・学校給食の試食会・ふれあい給食会・「食育」の講話等の実施	児童生徒が安全でおいしく給食を食べ、食に関する正しい理解を深める。	・児童、生徒 ・保護者 ・学校給食従事職員	学校給食試食会実施率	学校給食試食会を保護者・地域の方・地域の園児等とともに実施した。	98.0%	98.0%	100.0%	学校給食の充実を目指しており、試食会を実施することで保護者や地域の方に給食について理解してもらえる良い機会としている。全学校実施を各学校へお願いした。給食アンケートも実施している。
51	中学校給食の実施	中学校給食の実施	学校保健課	中学校給食の完全実施	中学生の食育の充実	中学生・教職員・保護者	完全給食実施率(学校数)	平成25年9月より中学校給食の完全実施	100.0%	100.0%	100.0%	中学校完全給食実施5年目が過ぎ体制も整ってきた。これからは、中学生の健康を考えた食育を充実させていきたい。
4. 食の担い手(ボランティア)活動者などの資質の向上												
52	少子化対応推進事業(再掲)	乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講習会	幼児教育センター	乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座の開催	乳幼児食育アドバイザーの共通認識とスキルアップを図る	・乳幼児食育アドバイザー	参加者数(平成27年度)参加者満足度(平成28年度~)	●開催日:5月18日 1回 ●開催場所:中央保健福祉センター ●内容:乳幼児の栄養方法及び食事の状況等の実態	100%	100%	100.0%	専門の先生を講師に招き、最新の情報をもとにご講話いただいた。現代の子育て家庭の実態や、食に関する傾向について学ぶことができた。実際に乳幼児食育アドバイザーとして活動するうえで、大切な心構えや知識を深めることができ、満足度が高かった。
追	少子化対応推進事業	乳幼児食育アドバイザー養成講座	幼児教育センター	乳幼児食育アドバイザー養成講座の開催	食の大切さや乳幼児からの食育の必要性を、家庭や離乳食講座等で発信していくことができる担い手として、人材育成をする。	一般市民	参加者満足度	事業内容の変更により実施していない	未定	未実施		
53	食生活改善事業(再掲)	【重点課題セ】食生活改善推進員研修会	健康づくり課	食生活改善推進員の研修	知識の習得・会員間の交流により、会員の資質向上と市民への対応力の向上を図る。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・食生活改善推進員	会員数	・開催地区:9地区×10回 ・調理実習は各地区4回。 ・参加率:52.8%	295人	241人	81.7%	養成講座を行い、新入会員が増えても、高齢化や家族の介護などから退会される方も多く、なかなか会員数を増加・維持することが困難。新入会員の早期退会防止のため、新入会員(3年目)へのフォローアップ研修を行っている。研修会の指標式は研修会参加者としたほうが妥当ではないか検討中。
54	食生活改善事業	【重点課題セ】食生活改善推進員養成講座	健康づくり課	食生活改善推進員になるための養成講座の開催	健康づくりの協力者を育成し、地域住民への食育推進を図る。 ※また、食品ロスについても啓発を行い、理解を深める	・食生活改善推進員を目指す市民	参加人員	・開講期間:8月~12月(全8日間) ※宇久:6月~12月(全9日間) 養成講座カリキュラムに基づき、講話・調理実習・運動実習・講演会を実施した。 ・修了者:29名。(概ね20時間の受講を修了した者に修了証を交付。)	30人	30人	100.0%	公民館や支所、関係各課へチラシとポスターの掲出。市内スポーツ施設・ボランティアセンターへチラシ設置。佐世保市ホームページ・フリーペーパーへ掲載。その他会員からの声掛けで受講生を募集している。
55	食育推進事業(再掲)	食育実践者ネットワーク会議	健康づくり課	市内の老人福祉施設、保育施設など、保健・医療・福祉分野の業務に携わっている管理栄養士・栄養士が一堂に会し、栄養指導の方法や食事の提供状況について情報交換を行う。	地域で食生活支援を必要とする市民へ、統一性のある継続した栄養相談の実施についての充実を図る	・市内の管理栄養士、栄養士など	参加者数	①平成29年6月1日(木) テーマ:献立作成について 参加人数:113名	200人	113人	56.5%	平成26年度から、年2回開催している。平成29年度は、内部の事情により年1回しか実施できなかったため、目標の達成は困難だった。平成30年度は年2回開催予定。
56	食育推進事業(再掲)	食育実践者研修会	健康づくり課	食育推進の役割を担う人材(食育実践者)に対し、資質向上のために研修会を実施する。また、活躍の機会を増加させるなど支援体制を整える。	健康づくりの協力者を育成し、地域住民への食育推進を図る。	・市内の食育実践者	参加者数	開催日:平成29年10月20日(金) テーマ:子どもの食生活の現状と課題について 参加人数:99名	120人	99人	82.5%	平成28年度から案内対象を食育推進の役割を担う人材に絞って実施している。平成29年度は案内するボランティア団体を7団体増やしたが、参加者は平成28年度より6名増加にとどまっている。
(4) 農林漁業を中心とした各種体験活動の促進と支援												
1. 子どもと保護者を対象とした体験活動												
57	ふれあい農業推進事業	農業体験	農業畜産課	貸農園形式により農業体験を実施	体験活動により食への関心を高め、心身の健康増進を図る。	・市民	体験者数	各種体験活動による支援を実施した。市民農園利用者63名、JA青年部が実施する食農教育活動参加者753名	750人	816人	108.8%	JA青年部が幼稚園児から小学生を中心に、精力的に食農・食育活動を行っている為です。

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについて、80%に満たなかった事業については、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容			目標達成度	目標達成度についての評価分析 (達成の理由、困難だった原因など)
								平成29年度	H29年度	H29年度		
58	青果市場管理運営事業	卸売市場の見学及び体験学習	卸売市場管理	卸売市場の見学及び青果物などの体験学習	卸売市場の見学及び体験学習をとおして、市場の役割や食への理解を深めるとともに、青果物・水産物等の消費拡大に資する。	・市民 ・来訪者	見学者数	青果・花き・水産市場において見学希望の申込みがあり、市場見学を実施。また青果・花き市場において小学生を対象としたフルーツカット教室を、8月に開催。26名の参加者。	900人	820人	91.1%	市内の小学校をはじめ県外からも市場見学者を毎年受け入れている。毎年同じ小学校が見学にきているため、目標値をほぼ達成できた。
59	栽培漁業推進事業 (再掲)	啓発活動 ・水産教室など (再掲)	水産課	事業番号 5 の再掲								
再	地域リサイクル活動支援事業	【重点課題セ】食のリサイクル (再掲)	量廃推進物課	事業番号 7 の再掲								
2. 地産地消の推進												
60	付加価値の高い一次産品育成対策事業	産地化・ブランド化、一億農産物振興事業の推進	農業畜産課	佐世保市産農産物(推進品目)の生産面積拡大	佐世保市産農産物の産地化を図る	・市民	佐世保市産農産物(推進品目)の生産面積	産地化・ブランド化育成事業や、一億農産物振興事業など、新たな農産物への支援を行った。	31.0ha	38.9ha	125.5%	品目については、産地化・ブランド化育成事業にてオリーブを、一億農産物振興事業にていちご・なす・アスパラガス・菊の支援を行いました。また一億農産物振興事業のハード面の事業において、生産面積1割以上の拡大又は反収1割増加を行う場合補助率をあげて支援を行い、各生産者の方の努力もあり目標達成となりました。
再	栽培漁業推進事業 (再掲)	啓発活動 ・水産教室など (再掲)	水産課	事業番号 5 の再掲								
61	地産地消推進事業 (再掲)	地産地消の促進	水産課	地元水産物の地元販売促進イベント開催への助成	地域水産物の地域内消費拡大を図る。	・水産関係団体 ・漁業協同組合	イベント参加者数					
62	水産物消費拡大事業	水産物消費拡大	水産課	水産物の県外・市外販売促進イベント開催への助成	地域水産物の広域的なPR活動により消費拡大・販路拡大を図る。	・水産関係団体 ・漁業協同組合	イベント参加者数	水産加工品PR・販売イベントの開催経費に対する支援	25,000人	20,000人	80.0%	目標には達成していないが、H28年度より5,000人増加している。開催日を12月第1土日と固定化しており、参加者数は気温や天気など当日の天候に大きく左右される。しかし、市民に対してイベント開催が浸透してきているため、今後も同様の開催方法で問題ないと判断している。
63	水産市場管理運営事業	お魚まつり	卸売市場管理事務	魚食普及、地産地消の推進を目的としたイベントの開催	水揚げされる新鮮な地元食材の提供と消費者への魚食普及を図る。	・水産市場関係者 ・消費者	お魚まつり入場者数	水産市場において、お魚まつりを開催。鮮魚・水産加工品の販売、販売促進PR、お魚さばき方教室等の魚食普及活動を実施。約2.8万人の来場者。(台風の影響による減)	40,000人	28,000人	70.0%	平成29年10月29日にお魚まつりを開催しましたが、台風22号の影響により、来場者数が伸びなかった。
3. 共生と対流促進												
64	『観光地域づくり推進事業』	生産者と消費者の交流促進	観光課	食など地域の特性を活かした潜在コンテンツの整備など観光地域づくりの取り組みを行なう。	都市住民及び来訪者の体験ツアーを実施し、生産者と消費者の交流促進を図る。	・市民 ・来訪者	商品化ツアー・体験プログラム参加者数	平成25年4月に認定された「海風の国」佐世保・小値賀観光圏において観光地域づくりの事業を実施。地域における食の魅力を活かした着地型観光商品「旅プラン」等の造成、販売を行なった。	177,500人	190,702人	107.4%	九十九島の認知度向上を目的とした九十九島PR事業や二つの日本遺産、世界遺産候補(黒島の集落H30年6月認定)、食に関する観光資源に関する情報発信や、関係団体等と連携した観光客誘致などの取り組みが奏功し、日帰り客数・宿泊客数ともに前年を上回る結果となったことで、目標達成につながった。
再	ふれあい農業推進事業 (再掲)	農業体験 (再掲)	農業畜産課	事業番号 57 の再掲								
65	離島漁業再生支援交付金事業	ブルーーツーム*の推進	水産課	観光資源を活用した地域振興策の実行	観光資源を活用し、漁村の活性化や食と漁業への理解を深める。	・漁業者 ・地区住民	離島地区における漁獲量	ウニ割り体験などの体験メニューの提供	1,780t	1,470t	82.6%	漁獲量については、台風や時化など天候により出漁日数が大きく左右され、また、水産資源が減少傾向にあることから、目標には達成できなかった。

実施事業一覧表

健康づくり課では、目標達成度80%以上の事業を100%にする目標を設定しています。そのため、目標達成度が80%を超えた事業については、達成の理由などについて、80%に満たなかった事業については、その原因などについて評価分析をお願いします。 ↓

番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	事業目的	対象者	指標式名	実施内容	目標値	実績値	目標達成度	目標達成度についての評価分析 (達成の理由、困難だった原因など)
								平成29年度	H29年度	H29年度	H29年度	
(5) 食の安全・安心や食生活に関する調査の取組推進												
1. 食品の安全性に関する情報提供・意見交換												
66・67	食のリスクコミュニケーション事業	食のリスクコミュニケーション事業	生活衛生課	食品関係情報の提供と意見交換(リスクコミュニケーション)の推進	衛生意識の向上による安全な食品の提供と食品事故を未然に防止する。	・市民 ・食品関連事業者	意見交換会開催回数	①NIUキッズキャンパスへの参加②大学生を対象とした食のリスクコミュニケーション「学園祭での食中毒予防」の実施	2回	2回	100.0%	達成理由:過去の実績に基づき目標値を設定しているため
再	調理師研修会(再掲)	調理師研修会(再掲)	健康づくり課	事業番号 41の再掲								
2. 食品の衛生管理												
再	調理師研修会(再掲)	調理師研修会(再掲)	健康づくり課	事業番号41の再掲								
追	家畜保健衛生対策事業	家畜保健衛生対策	農業畜産課	家畜の疾病、事故が減少することを目的として、農業団体が行う事業に対して補助金を交付	家畜の疾病、事故等を未然に防ぎ、安全な食品を提供する。	・農業団体	子牛出荷時におけるワクチン接種率	疾病予防対策事業、牛舎衛生対策事業、寄生虫対策事業に対し補助金を交付	100.0%	100.0%	100.0%	目標達成の取り組みといたしまして、農業団体等への説明を毎年行っています。
68	営業許可調査事業	衛生講習会	生活衛生課	営業者、営業所従事者及び消費者に対する衛生講習会の開催、パンフレットの配布、苦情相談の窓口開設	食品の安全性に関する基礎的な知識を習得する。	・消費者 ・食品等事業者	食品衛生講習会実績	市民、食品営業者向けに食品衛生講習会を実施。 内訳は・責任者 24回 ・営業者 21回 ・消費者 9回 ・その他 9回	60回	63回	105.0%	達成理由:過去の実績に基づき目標値を設定しているため
69	食肉品質向上事業	と畜場見学、検査体験	食肉衛生検査所	お肉ができるまでの過程の見学や食肉検査の学習・体験	生きた動物がお肉となって食卓にのぼるまでの様々な過程について理解を深めることで、食に関する感謝の気持ちを育むとともに、消費者の安全・安心な食生活環境づくりを推進する。	・小学生高学年の児童及びその保護者、中学生	参加者満足度	食肉の生産・検査・流通の過程を学ぶ見学会及び体験学習イベントを開催。 ①親子参加型見学会「体験！お肉ができるまで～と畜場見学会～」(8/2,佐世保市と畜場ほか,児童9名・保護者9名)。②中学生向け体験学習「体験！お肉の検査員～獣医師のお仕事～」(7/27～28,同上,中学生3名)	95.0%	100.0%	105.3%	①②いずれについても、イベント参加者にアンケート回答を求めている。また、イベント実施後に関係者で協議し、気づきや改善が必要な点等について洗い出しを行っている。これらを踏まえて、毎年イベント内容の改善を繰り返していることが、目標達成(参加者の満足度)につながっているのではないかと考える。